

令和5年度 防衛大学校入校式

井野 防衛副大臣訓示

新入生の皆さん、入校おめでとう。そして、御家族の皆様、数ある進路の中から、大切な御家族を本校に送り出していただき、誠にありがとうございます。

入校生の皆さんは、日本の国防を担うという気高い理想とそれぞれあるべき幹部自衛官としての夢と希望を持ちながら、本校の門を叩いてくれたものと思います。他方、現在は、どんな先生、どんな先輩がいるのだろうと不安と緊張もよぎっていることと思います。最初は戸惑いがあるかもしれませんが、一つ一つ焦らずに慣れていってください。「習うより慣れろ」慣れてしまえば、自然と体も動き、成長を実感できるようになると思います。

研究科入校生の皆さんは、実務を一端離れたこの機会に、それぞれ専門を追究し、我が国と国際社会の平和と安定のために自分が何をすべきか、といったあるべき姿を思い描き、学ばれることを期待します。

留学生の皆さんは、ここで得る様々な成果や経験を母国に持ち帰り、我が国との友好の架け橋となるとともに、ここにいる仲間と終生変わらぬ友情を育まれることを希望します。

日本は戦後、国際社会に復帰し、国際協力を通じ、平和を享受してきました。しかし、世界は今、ロシアのウクライナ侵略を始め、一部の国による国際秩序への挑戦にさらされています。我々は、自ら身を守るために必要な防衛力の抜本的強化を急がなければなりません。また、サイバー分野等の新たな科学技術の発展は、戦い方を劇的に変化させ、その技術の発展は益々早くなっています。

入校生の皆さんは、変化の激しい世界において、変化の早い科学技術を駆使し、我々の先輩方が守ってきた我が国の平和と独立のため、活躍されることが期待されます。本校において、広い視野、深い科学的思考力、豊かな人間性を育んでください。

また、自衛隊員が能力を発揮するためには、一人ひとりがその特性を活かし、多様性を重んじる姿勢が重要です。今年、女性の入校者は、過去最多の103名となるとともに、陸海空各自衛隊で女性の将官が揃いました。このように、自衛隊全体でも女性が増え、性別を問わず活躍できる環境となっていることを改めて認識し、性別を問わず互いに切磋琢磨し、これからの学生生活を送ってください。

最後になりましたが、平素から防衛大学校、そして防衛省・自衛隊に対し、多大なる御理解と御支援を賜っております、御来賓の皆様には深く御礼申し上げます。入校生の皆さんが、久保学校長をはじめとする教職員の真摯な教育指導の下、喜怒哀楽を共にし、かけがえのない仲間とともに、将来国民の負託に応える自衛官として活躍されることを期待し、私の訓示といたします。

令和5年4月5日
防衛副大臣 井野 俊郎